

令和7年度磯子工業高等学校（全日制）不祥事ゼロプログラムの検証等

○ 項目・目標別実施結果

項 目	目 標	実施結果と目標の達成状況
(1)公務外非行の防止(法令遵守意識の向上)	公務外非行の防止徹底を図る。	A (良好) 啓発資料の配布と繰り返しの指導を継続した結果、職員全体に法令遵守の重要性が共有され、特に若手職員の認識と行動に具体的な変化が見られた。公務外非行の発生を抑止する体制が定着し、防止徹底に向けた取組は一定の成果を上げた。
(2)体罰・不適切な指導、セクハラ・わいせつ行為の防止	生徒の人権を尊重し、体罰・不適切指導やセクハラ・わいせつ行為などの防止徹底を図る。	A (良好) 体研修、個別面談、啓発資料の活用を継続し、人権尊重と服務規律の理解が職員間で共有された。携帯電話・メールの適正使用も周知が浸透し、不適切指導等の兆候を早期に捉える意識が高まった。結果として、体罰・ハラスメントの防止に向けた取組は校内に定着した。
(3)職場におけるハラスメント行為の防止	職員が当事者意識をもってハラスメント行為を未然に防止する。	A (良好) 相談しやすい環境整備と相談窓口の周知を進め、管理職による個別対応を行ったことで、職員の当事者意識が高まった。日常的に相談や声掛けが行われる職場風土が形成され、ハラスメント行為の未然防止につながった。
(4)成績処理及び進路関係書類作成及び取り扱いに係る事故防止	成績処理及び進路関係書類作成及び取り扱いに係る事故防止	A (良好) マニュアルに基づいた業務遂行と複数回の点検を徹底した結果、成績処理や進路関係書類に関する誤り等は発生しなかった。確認手順の遵守が職員間に浸透し、業務の正確性と慎重な取扱い意識が定着したことで、不祥事防止につながった。
(5)適正な経理処理(備品の現物照合、公費・私費・現金管理)	会計業務の改善を進め、現金等の取扱いも含めた会計に係わる事故を未然に防止する。また、備品の現物照合を徹底する。	A (良好) 私費会計基準に基づく処理方法の見直しと職場研修を実施し、会計業務の手順と注意点が共有された。現金管理の確認体制が整い、長期休業中の備品点検により台帳との不一致も防止された。結果として、会計事故の未然防止と備品管理の徹底が進んだ。
(6)個人情報等の管理、情報セキュリティ対策(パスワードの設定、誤廃棄防止)	個人情報の適正管理及び情報セキュリティ対策を適切に行い、情報の紛失・流失を未然に防止する。	A (良好) 個人情報管理の点検と周知を継続し、パスワード設定や誤廃棄防止の取扱いが徹底された。携帯電話や電子メールの使用ルールも共有され、帳票類の管理手順が明確化された。結果として、組織的な情報管理体制が整い、個人情報流出の防止につながった。
(7)交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守	酒酔い・酒気帯びを含む交通違反・交通事故の発生を未然に防止する	A (良好) 職場研修で啓発資料を用いた周知を行い、飲酒運転防止と交通法規遵守の意識が職員に浸透した。日常の声掛けや注意喚起が継続され、交通違反や交通事故の発生を防ぐ体制が維持された。

<p>(8)業務執行体制の確認(情報共有、相互チェック体制、業務協力体制)</p>	<p>円滑な業務執行にむけて、グループや学年、各教科において情報の共有と業務改善を推進する。</p>	<p>A (良好) 情報共有と相互チェックを意識した業務執行体制を整備し、入学者選抜業務では役割分担と確認手順を明確化した。協力体制のもとで業務が進められ、服務規律と政治的中立性への意識も維持され、不祥事防止につながった。</p>
-------------------------------------------	----------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

○ 令和7年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和8年度に取り組むべき課題

(学校長意見)

令和7年度神奈川県立磯子工業高等学校全日制不祥事ゼロプログラムは、全項目において計画どおり取組が進められ、不祥事の未然防止に向けた校内体制の整備と意識の共有が図られた。法令遵守や人権尊重、ハラスメント防止については、研修や啓発、日常的な指導を通じて職員の自覚が高まり、相談や予防を重視する職場風土が形成された。成績処理、進路関係書類、会計処理、個人情報管理、入学者選抜業務などにおいても、マニュアルに基づく業務遂行と相互確認により、不祥事の発生を防ぐ取組が定着した。

令和8年度に向けては、これらの取組を恒常的な実践として維持し、形式化させないことが課題である。特に、経験の浅い職員への継続的な支援や、管理職による点検・対話を充実させ、組織全体で不祥事防止への意識を高い水準で保つ必要がある。今後も情報共有と相互チェックを基盤とした学校運営を進めていくことが求められる。